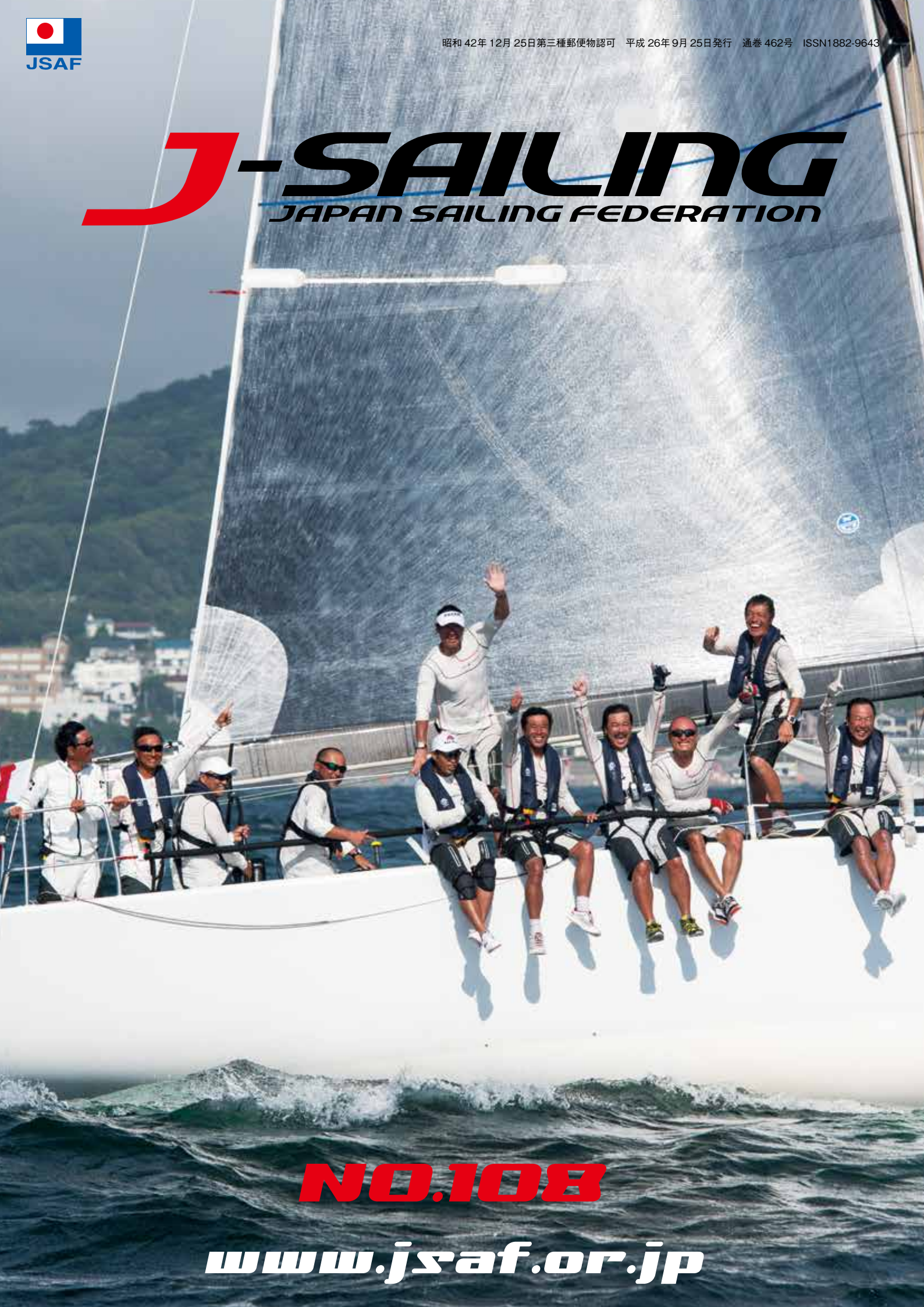


J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION



NO.108

www.jsaf.or.jp



みんなのお気に入り
チップスター



ヤマザキナビスコ

JSAFからのメッセージ

ボランティアの募集と募金のお願い

ボランティア募集について: <http://japansailing2020.jimdo.com/>

募金について: http://www.jsaf.or.jp/hp/about/committee/olympic_junbi

■ 1年前の9月7日、招致活動が実を結び、2020年の東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることになりました。それからちょうど1年後、JSAFは2つの活動を始めました。

■ まずはJSAFの競技運営ボランティアの募集です。

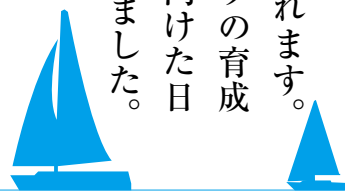
2020年までに多くの国際的レースが日本で開催されます。そこでJSAFではセーリング競技運営に携わるスタッフの育成を兼ね『2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた日本セーリング連盟競技ボランティア登録制度』を発足させました。詳細はホームページをご覧ください。

■ 次に募金のお願いです。

前述のように、今後、日本で開催予定の多くの国際レース、そして2020東京オリンピック・パラリンピックの運営を日本人セーラーが担うには、世界に通用するレースオフィサーやジャッジ、メジャラーの育成が肝要です。

こうした人材育成は講習会の実施や海外派遣など一定の費用がかかります。そこで、その費用はJSAF会員による将来投資として考え、募金という形でご協力をいただきたいと思います。JSAF会員自らがレース担当者を育て、2020年以降にも人的な資産を残し、日本のセーリング界の将来に役立てたいという思いです。こちらも詳しくはホームページをご覧ください。

■ 東京オリンピック・パラリンピック2020へ向けて様々な動きがあります。今後ともJSAF会員の皆様のご協力をお願いする次第です。(JSAF専務理事・鈴木修)



■ジュニア・ユースにも届きます。

J-SAILINGはジュニア・ユースメンバーが所属するおよそ200の団体にお届けしています。各団体のご担当者の方には、ジュニア・ユースセーラーのためにJ-SAILINGを活用されることをお勧めいたします。

■PDFでも読めます。

JSAFホームページの<http://www.jsaf.or.jp/j-sailing/>にアクセスしてください。J-SAILINGのpdfバージョンが掲載されています。過去の記事を再読したり、本誌が手元にない時にもPCがあれば読むことができます。ご利用ください。

■メールアドレスをお知らせください。

デジタル化が進み、電子メールを使った連絡方法が一般的になっています。JSAFもメンバー各位に様々な情報をお届けする際、メールを利用することが多くなっています。そこで、各団体の登録業務ご担当の方々にお願いします。メンバーの新規登録や更新登録の際には、必ずメールアドレスを併記していただけるようお願いいたします。

JSAFのメンバーになれば

- ◎メンバーズカードが発行され、公式競技参加の資格が与えられます。
- ◎会費の一部が傷害保険の保険料に充当され、セーリングの事故による死亡、後遺障害に適用されます。
- ◎JSAFの会報誌「J-SAILING」が送付されます。
- ◎各種講習会などに参加でき、資格を取得する際の条件に適用されます。
- ◎「J-SAILING」をはじめ、所属する加盟団体からもセーリングに関する各種行事やレース日程などの情報が提供されます。

JSAFの活動の詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.jsaf.or.jp/hp/>



ASTRON
GPS
SOLAR

SEIKO

お問い合わせ先：セイコーウォッチ お客様相談室 0120-061-012 (9:30~17:30土・日・祝日除く)

JAPANCUP 2014

レポート／浅野英武（外洋三崎副会長、総務委員長） 写真／中嶋一成

〈KARASU〉優勝！

8月9日～15日、ジャパンカップ2014がシーボニアをベースに開催された。
10艇が参加し、優勝したのは〈KARASU〉。圧倒的な勝利だった。





パールレースを制し、ジャパンカップが進水後2戦目となった〈ESPRIT〉は2位

皆さんのご協力

昨年10月初旬、当時のJSAF外洋常務理事からJSAF外洋三崎に「フィナンサーズについては特別協賛のリビエラリゾート社が全面負担するので、主管団体としてその運営を担ってもらえないか」との話があった。

翌月の外洋三崎常任委員会に諮り、賛否両論あったものの「微力ながら、関東開催なら順番としても妥当」ということでジャパンカップ2014のプロジェクトが始まった。

それからの10カ月。全日本外洋ヨット選手権大会という名前の重みゆえ、筆舌に尽くしがたい険しい局面に何度も出くわしたが、なんとか開催にこぎつけ、無事故で大会を閉幕できた今、思うことはすべての関係者への「感謝」の気持ちばかりだ。

初動体制においていろいろと行違いが生じ、それらの説明不足によりご迷惑、ご心配を多くの方におかけしたが、それを救っていただいたのはひとえに外洋計測委員会（吉田豊委員長）のご協力だった。

ジャパンカップは参加艇の公平を期するためにセール計測とOSRRルールの厳守が義務付けられている。その運用のノウハウについて全面的なご指導をいただいたのは幸いであった。

セールメジャー部会のご協力の下、IRC委員会（川合紀行委員長）にも細かい部分でのご助力をいただいた。両委員長にはレース開催前の3日間、大会本部のシーボニアマリナーに遠来していただき、セール計測作業の陣頭指揮に当たっていただいた。

同時並行のOSRインスペクションと併せ、外洋三崎専門スタッフにとっても貴重な研修の場となったことは言うまでもない。重ねて御礼を申し上げる次第だ。

精鋭10艇の参加

大会には関東水域・東北水域の先鋭艇をはじめとする強者10艇の参加となった。JSAFの「ジャパンカップ規定」では開催要件には「原則10艇以上で…」の条件がある。参加艇の誘致は主要参加艇オーナーの熱心な呼びかけの賜物であった。

世界最新鋭艇として登場したカーキーク40の〈ESPRIT〉、そしてプロダクションボートとして評価の高いFIRST35の〈Char Chan V〉に至るまでの10艇が日頃の切磋琢磨を夏の相模湾に発揮した。微風から強風までのシリーズにおいて目を見張る走りを見せしてくれた10艇のオーナー、各選手に心からの敬意を表したい。

個人的には圧勝した〈KARASU〉の際立つ強さ、そして最小レーティングながら果敢に大型艇に挑み、終始敢闘賞に値する走りを見せた〈Char Chan V〉が印象的であった。

台風の影響

大会は台風11号の影響で初日がキャンセルで、全8レースが行われた。詳細はすでに各サイトでレポートされているが、大庭秀夫大会レース委員長のあざやかな海上運営にも感謝したい。

大庭氏とは個人的にも長年の知己であったこと、氏とはかつてともにジャパンカップ運営に従事したこと、また五輪関係でも気心が知れていたその存在は心強かった。事前の打ち合わせも綿密に行い、これが陸海両本部の連携が円滑に進んだことにもつながった。

当初から海上運営はリビエラ社（大庭氏）が担当することでプロジェクトはスタートしており、「レースを丸投げしている」という誤解を生んだが、プロテスト委員会艇以外の運営艇には常時実行委

員会のスタッフが乗艇し、海上サポート（インスペクション艇含む）をしており、ここでそれを正しておきたい。

初日キャンセルの判断も良かった。

レース開始の前日午後には台風避難の漁船群団に湾口を遮断され、最後まで気がかりだった油壺の2艇がシーボニアに入港した。聞くところによると油壺のボートサービスのスタッフがなんとかジャパンカップに出してあげようという係留中の漁船を人力で押し分け、航路を確保していただいたとのことだった。あらためて感謝申し上げたい。

海の仲間たちの連帯

今シリーズでの抗議は2件だった。

大会プロテスト委員会（大村雅一委員長）の方々は全レース海上に出て、抗議発生の際は長時間にわたり審問にあたっていた。公示・帆走指示書の監修から最終日の審問まで、きめ細かい対応をいただき心から感謝を申し上げる。

また、今回の大会運営は前述のとおりリビエラリゾート社と外洋三崎のコラボレーションとしてすべてが進行した。同社とは普段あまり関わりがなかったため、「企業と団体間の諸々」を危惧したが、それらは見事に杞憂に終わった。同社・新通弘二部長のリーダーシップは冴え、有言実行型の采配には驚かされた。とくに運営全般についての我々の希望・要望をほぼ100%受け入れていただいた（唯一の心残りは参加艇がマリナーAバースに整列できなかったことだった）。他スタッフの協力も予想以上であった。海の仲間たちの連帯がなせる技かも知れない。我々が朝から晩まで余計なストレスも溜めずに陸上本部を運営できたことはまことに以って幸いであった。同社のご尽力に対し、謙虚に御礼を申し上げます。また、手前味噌になるが、会期中の外



最終日は風速 20 ノットを超え、大波の中で 3 レースが行われた



満面の笑みの〈KARASU〉チーム

優勝記

「段取り八分」 が最大の勝因

レポート／中田龍二（〈KARASU〉スキッパー）

チームについて

ジャパンカップ 2014 で〈KARASU〉チームは 8 レース中 6 度のトップを獲得し、念願の優勝を果たしました。

現チーム結成から約 15 年、ほとんど変わらぬチーム・メンバーで臨みました。

バウ：小林英昭、マスト：中田龍二、ピット：三好康真、ナビ：荒井和昌、フローター：橋本浩之・宮井祐治、トリマー：藤井洋暢、メイン：増田隆二、ヘルム：石川淳一、オーナー：斜森保雄、サポート：臼井誠・遠藤健一郎。

以上 12 人は月 4 日の合宿と海外遠征も含めたレース参戦で寝食を共にし、オン・オフの切り替えが的確にできる最高のコアメンバーです。

さらに今回、強力助っ人としてタクティシャン：仲川登、セカンドトリマー：現チーム創設時スキッパーの高野佳雄を加えた最強の布陣でレースに臨みました。

ボートについて

ボート（SUMMIT40 king）については 2009 年進水で 6 年目。決して最新艇ではないのですが、今回は海外レガッタでの経験も踏まえ、セールエリアの変更、バウスプリット交換等を行いました。クルー自身、乗ってとても気持ち良くセーリングができていました。

今回のジャパンカップは IRC ボート対最新鋭ハイパフォーマンスボートとの戦いといっても過言ではなかったかと思います。そして、今回に限ってはハイパフォーマンスボートと走り比べてもついて行けると実感するほどのクオリティの高い仕上がりとなりました。（もっと早くやっていたら良かった？ ほどの進化！）

勝因について

また、レース期間中、サポート要員のおかげで飯の段取りから風呂、洗濯、宿舎からハーバ間の移動、毎朝の船底磨き、セール搭載、水の準備など、細かな面でもストレスなく行動ができました。

メンバーの構成、事前のボートチューニング、生活面のサポートなどすべてが噛み合っていました。まさに「段取り八分」ができたことが最大の勝因です。

そのおかげで「残り二分」のゲームプラン、セーリング自体に集中ができ、8 レースともほぼミスもなく戦えることができました。

その中でも 2 日目の第 4 レース（ディスタンスレース）で新セール「コード 0」が大活躍。微風の中スイスイ進み、初島までラムライン上で艇間より左海面をキープし、トップ集団で回航することができました。コード 0 がなければラムラインを外れ、右海面で大きく順位を落としていたかもしれません。また最終日 20 ノットを超えた大波の中で

3 レースが行われ、久しぶりに体力の限界に挑戦？ となり本当に疲れました。そんなヘビーコンディションの中、普段通りにマーク回航し、ダウンウインドではサイズアップしたスピナーカーでマックス 15 ノットを超えるボートスピードを更新し、優位性を保てました。

微風、強風ともに高いポテンシャルが発揮できトップが取れたことは、今後のチームのレベルアップを予感させる大きな収穫でした。

驚くべきオーナーのバイタリティ

斜森オーナーは全 8 レースに乗船し、レースを大いに楽しめました。オーナーのバイタリティには驚きを隠せません。「自分が乗れなくなったらヨットを辞める」との発言も空耳で聞きましたが、今回の優勝で引退は当分、先に延ばされましたね。クルー全員でいつまでも乗船していただけるように努めます。このような環境を作っていたに感謝しております。

2011 年に続きホームポートでのジャパンカップ奪取です。

どのレースでも同じですが、まずは自分達自身の勝負に勝ち、そして他艇だけではなく自然も相手する中で、たった 1 艇しか得られない栄冠が優勝です。その中でもジャパンカップを手にすることは崇高で格別なものです。来年は海外、日本全国のチームが集い、より熱いレースに発展することに期待します。

我がチームも再び挑戦し、勝利の美酒を味わうためにさらに精進します。

大会実行委員、レース運営、リビエラ社、スポンサーの方々に日本最高峰のヨットレースの場を提供いただきましたことに感謝申し上げます。今後ともますます伝統あるレースに成長することを祈念しています。

洋三崎常任委員会スタッフの献身的な活動についても記しておきたい。開催まで紆余曲折があったが、始まってしまえば延べ 100 名余が貴重な夏休みを返上し、連日手弁当での参加であった。最後に、「ジャパンカップの在り方を

J S A F 外洋として真摯に議論する時期に来ている」ことをあえて申し上げたい。東西の一線級の艇とセーラーが一堂に会して「真のジャパンカップ大会開催」を望む声は根強い。解決しなければならぬ諸問題が背景

にあるのは承知しているが、是非とも実現してほしいと思う。すでに、J S A F 外洋ではそのためのプロジェクトチームを立ち上げていると聞く。強いリーダーシップと説得力でかつてのような「ジャパンカップ」の再来を期待したい。

第55回パールレース

大いなる定番レース

第55回パールレースは、48艇（JRC部門44艇、ダブルハンド部門4艇）、乗員365名の参加を得て、7月25日、11時25分、1回のゼネラル・リコールの後に三重県・南伊勢町五ヶ所湾口をスタートしました。

レポート／河内達夫（第55回パールレース実行委員長）

スタート&フィニッシュの変化

フィニッシュは江の島・白灯台前。6艇のリタイアはありましたが、42艇が事故もなく無事にレースを終了することができました。

表彰式は新築された江の島ヨットハウス2階の大会議室にて、多くの参加者を得て盛大に実施しました。参加された各艇のみならず、ご協力いただきました関係の方々にも心から感謝します。

以下に今回レース開催に向けての各事情を記述します。

*

昨年のレースの前にスタート地である志摩ヨットハーバーのクラブハウスが焼失しました。昨年はそれを乗り越え、他の建物を利用して何とかレースを実現しましたが、その後も志摩ヨットハーバーの建物火災が続き、レース開催が危ぶまれました。

しかし今回、(株)志摩ヨットハーバーの懸命の努力で一部の建物が再建され、何とか間に合わせる事ができました。またフィニッシュの江の島ヨットハーバー・ヨットハウスは、老朽化による劣

化、耐震強度不足から建て替えられ、今年6月の竣工式をもってオープンしました。

江の島ヨットクラブは、新装間もないヨットハウスの引越で大わらわの時期に、フィニッシュ側レース本部の準備が加わり、役員たちは大変な苦勞をしました。

安全第一の必要性

今年のレースでは国際VHFで参加艇をサポートする伴走艇の用意ができなくなり、また、そこで、参加艇の動静把握のローコールを実現するために、レース海域をすべてカバーできる衛星携帯電話を必携としました。

国際VHFによる参加艇位置情報の発信がなくなったため、レースの面白みがなくなったとの意見もありますが、主催者側は参加艇との連絡手段の確保という安全第一の必要性から変更しました。

JSAF外洋特別規定（JSAF・IOSR）ではカテゴリー4からハンディタイプは国際VHFを必須としており、あくまでもこの装備は、その艇の安全のため（遭難時の巡視船・他の船舶との通信用）です。

新しい試み

パールレースは全日本レースと位置づけられ、参加資格もJSAFメンバーであることが必須条件とされています。その資格条件確認に従来はJSAFメンバーカード・コピーの提出をお願いしてきましたが、レース直近の会費入金もあり、確認には各加盟団体事務局の多くの労力を要しました。

そこで今回はオーナーおよび乗員のJSAFメンバー番号を申告してもらい、JSAFメンバー管理システムにより会員資格を確認しました。

確認結果は参加者の8%（30人）の確認に手間取ったのみで、この方法の有効性を確認できました。可能であれば他のレースにおいても同様に会員証コピーの提出を省略できれば、メンバーのステータスも上がるのではないのでしょうか。

沖縄・東海ヨットレースにおいてRace Tracking System（Yellowbrick等）を採用し、外洋レースの「見える化」を実現しました。これにより、レースに参加していない陸上の家族もレース艇の動きを見て楽しめるようになりました。

この情報をすべての参加艇が見られようにするには装備が必要で、公平な情報かどうかについては疑問が残りますが、パールレースをより楽しくするツールとしてRace Tracking Systemの採用も一考したいものです。

外洋レースの醍醐味

外洋レースのオーナーおよび乗員の高齢化は著しく、パールレースの参加艇・乗員もその傾向に違いはありません。体力に自信のなくなったセーラーは、周りのインシヨアレースよりも知識と経験を活かせるオフシヨアレースに志向するのは時の流れではないか、との意見もあります。

しかし、パールレースの海域は他になに独特の風、潮、多くの島々、各地の漁網、多くの漁船・商船の往来といった環境にあり、ナビゲーションの腕の見せ所の極みであるとともに、オーナー・ナビ・レースの集中力の維持も含めて、外洋レースの面白さそのものをいかに理解し対処していくかといった観点から、レースを楽しむことは何も変わらないのではないのでしょうか。

定番のレースを定番らしく

今回の参加は、永年参加してきたが取りやめた艇、「いつかはパールレースに」との思いから参加した艇、他のレーススケジュール等から参加を断念した艇などそれぞれの事情は様々で、これらの参加艇の増減を見ると、パールレース（外洋レース）に参加する艇および乗員の絶対数はこれくらいなのかと考えられないこともありません。

乗員を公募して遠方から来た艇もありましたが、現状の外洋レース参加者の数は「こんなもんかもしれない」というのは、穿った見方でしょうか。外洋レースに参加する艇・乗員をいかにして増やしていくかが課題です。

*

いろいろな環境が変化する中で、各方面のご協力により何とか今年もレースを実現することができました。

パールレースは外洋レースの登竜門と言われており、国内における定番の外洋レースですが、定番のレースを定番らしくやっていくために、これからも一層取り組んでいきたいと思います。



(写真左、上) 進水間もなく総合優勝した〈ESPRIT〉



スタートの町・南勢町のゆるキャラ「たいみー」がレース艇を見送ってくれました。ちなみに「たいみー」は身体が鯛(たい)で顔はみかんからの命名



三重県・南伊勢町 五ヶ所湾口を
スタートしたレースフリート

IRC-D クラス優勝の〈Julian〉



前夜祭、最後まで飲んだ人たちの記念撮影



IRC-C クラス優勝の〈CRESCENTII〉チーム



IRC-B クラス優勝の〈Ten Quarter〉チーム

想像力豊かな選手を目指して

——コーチの視点から

レーザー4.7ユースワールド唐津大会は男子の5位入賞、5名のゴールドフリート進出、女子の総合6位（U16では2位）、7位の2名がシングルフィニッシュで、一定の成果を残すことができた。選手28名、コーチ3名の体制で臨んだ日本チームの雰囲気は非常に良く、最後まで士気が高かった。一方で多くの課題も明確になり、継続したユース世代への強化を行う必要性を改めて感じた。ワールド前から大会終了までの取り組みについてコーチの視点からまとめた。

レポート／佐々木共之（日本レーザークラス協会強化委員長）
写真／日本レーザークラス協会強化委員会

■3つの方針

ワールドの唐津での開催が決定して以降、レーザークラス協会強化委員会は3つの方針を立てました。

一つ目は、選考大会を活用した強化です。

全日本規模の大会、地方選手権の10大会に出場枠を割り振り、代表を目指す選手が集う競争の場を設定しました。

二つ目は、地方開催のクリニック（講習会）です。

地元で核となる選手を育成することを目的とし、練習方法や体力向上の方法など世界選手権挑戦に必要な情報提供を行いました。

三つ目は、強化合宿です。

唐津での集団練習、集団生活に馴染むことを心がけました。地元の指導者、保護者に協力を呼びかけ海上運営・指導補佐を行って頂きました。これにより安全確保と練習効率の向上を図りました。

その結果、コーチ側から選手へ要する基本的な技術・知識・取り組みの姿勢が伝わり、地元の指導者との理解を深めることによって一貫した指導の基礎を築きました。

■2009年が出発点

今回の強化方針を決めるに際しては、2009年のラジアルユースワールド唐津大会の経験が基礎になっています。

当時はユースの強化活動をあまり行っておらず、またジュニア、ユース選手に対するコーチの経験や手法も少ないまま、ユースワールドに臨みました。

その結果、成績は惨敗。怪我人や意欲が低下した選手がレースごとに増え、日本はチームとして機能せず、苦い思いをしました。

この反省を活かすために今大会の開催が決定した時から、日本チームとして戦うことに取り組みました。世界選手権のグループ分けが3つ（男子2、女子1）になる事が判った時点でチームをA、B、Cに分け、コーチ3名がそれぞれの担当を持ち、選手のパフォーマンスと模擬レースの成績によってチームを降格・昇格する方法を取りました。

これにより、上位の選手でも、一度降格してしまうと簡単に昇格できないという現実を体験しました。また、選手間の競争でミスをしなければ上位チームに留まることができるという

う自信を伝えることもできました。

競争心を高めるといふ手法は、ミティンクやその他の時間においても引き継がれ、コーチから提供される情報を自分なりに活用する術を選手自身で身につけてくれたと感じています。

■技術修正に取り組めた

選手のレベルがはっきりと別れていたため、海上での練習は課題ごとにグループ分けし、基礎ができていない選手にはより多くの基礎習得の時間を設けました。そして、練習の最後にはレースを行い、成果の確認（チーム入れ替え）を常に行いました。

それぞれの合宿では左記の4つテーマを明確にし、4.7ワールドの場においてもそれを実行しました。

◎ミスとロスをしなないセーリング

◎やる気を行動で示す（一番に出艇するなど）

◎成績目標と動作目標を持つ

◎あきらめない心を持ち続ける

具体的には、3月合宿の時点では8の字帆走、クローズ、ダウンウィンドなどのボートハンドリング技術を徹底し、5月合宿では、3月の基礎練習に加え、レー

レーザー 4.7 級ユース世界選手権

佐賀県唐津市、2014年8月8日～15日

<http://2014laser4.7-worlds.com/>

素晴らしい大会だった

唐津に集まった世界中（25カ国、103名）の4.7セラーを待っていたのは唐津にコンパスコースを合わせた巨大な台風だった。コーチや選手の中には「タイフーンって見たことないから見てみたい!」などというとてもない輩もいたが、コーチボート全艇陸揚げ、大テント固縛、参加艇は予想される風向に合わせた固縛を総力でこなし、プラクティス中止、唐津神社で予定されていた盆踊り付きの開会式は急きょ屋内で開催という幕開けが始まった。

雷による室内待機あり、日没前の曳航帰港ありと、終わって見れば、一週間の中でレースに使える風はすべて使ったといえる大会だった。

レーザーカフェは唐津の婦人会、レーザーメンバー、選手保護者の協力で日本のおもてなしの見本を示してくれたし、通訳グループは24時間体制で選手の快適な滞在を支え、最後にはパスポートを紛失したイタリア兄弟の3日遅れの出国までサポートをしてくれた。素晴らしい大会だった。（大谷たかを）



表彰された全選手が一堂に会した

男子のスタート (photo by Kaoru Soehata)





QUANTUM Spinn.Works

実戦活用報告

(セイラーズ便り)

クルージングボートでレースを楽しむ。

レース参加に思いとどまらせる要因はクルー不足と職人技のフォーデッキワークが挙げられる。少しの装備の工夫で解決できるかもしれない。ジブ交換がファールリングで対応できるように、苦手のスピン・ワークの克服を考えよう。

Quantumでは
3つの方法を用意しました。

- ① スピン・ファール
- ② スピン・スリーブ
- ③ スピン・バック&テークダウン



SPINFURL

詳細はお気軽にお問合わせください。

Quantum Japan

japan@quantumsails.com
www.quantumsails.com

www.wattsmarine.jp

(株)セイルス・パイ・ワッツ・ジャパン
本社ロフト

〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町 8-40
電話:046-882-5451 fax:046-882-4319
関西営業所(新西宮 YH)

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-14-3
電話:0798-23-6410 fax:0798-23-6420

大会が始まると選手のパフォーマンスを最大限に引き出すことに注力しました。

そのために事前合宿から本大会最終レース前の最後の最後まで、ビデオで動作確認をし技術修正を行いました。

本大会では偶然にも軽風から始まったことも幸いでした。

■最大限のマンパワーを発揮

大会が始まると選手のパフォーマンスを最大限に引き出すことに注力しました。

そのために事前合宿から本大会最終レース前の最後の最後まで、ビデオで動作確認をし技術修正を行いました。

大会が始まると選手のパフォーマンスを最大限に引き出すことに注力しました。

大会当日になつて多くの選手が感じたと思いますが、ハーバーですれ違う他国選手は、皆、身体が大きく、時には見上げるほどでした。「同年代ではないだろう」という印象を皆が持ったはずですが、しかし、実際はこの選手たちと戦わなければならぬことを認識し、真剣に体

大会当日になつて多くの選手が感じたと思いますが、ハーバーですれ違う他国選手は、皆、身体が大きく、時には見上げるほどでした。「同年代ではないだろう」という印象を皆が持ったはずですが、しかし、実際はこの選手たちと戦わなければならぬことを認識し、真剣に体

大会当日になつて多くの選手が感じたと思いますが、ハーバーですれ違う他国選手は、皆、身体が大きく、時には見上げるほどでした。「同年代ではないだろう」という印象を皆が持ったはずですが、しかし、実際はこの選手たちと戦わなければならぬことを認識し、真剣に体

■すべてを向上せねばならない

入賞1名、シングル2名という成績は、一定の成果として評価できます。しかし、毎年つづけて表彰台を狙い、将来のトップセーラーとして育成していくためには、技術・体力・知力のすべてを向上せねばならないことを改めて感じました。

日本選手と世界のレベル差は一年半ほど遅れています。

大会当日になつて多くの選手が感じたと思いますが、ハーバーですれ違う他国選手は、皆、身体が大きく、時には見上げるほどでした。「同年代ではないだろう」という印象を皆が持ったはずですが、しかし、実際はこの選手たちと戦わなければならぬことを認識し、真剣に体

大会当日になつて多くの選手が感じたと思いますが、ハーバーですれ違う他国選手は、皆、身体が大きく、時には見上げるほどでした。「同年代ではないだろう」という印象を皆が持ったはずですが、しかし、実際はこの選手たちと戦わなければならぬことを認識し、真剣に体

大会当日になつて多くの選手が感じたと思いますが、ハーバーですれ違う他国選手は、皆、身体が大きく、時には見上げるほどでした。「同年代ではないだろう」という印象を皆が持ったはずですが、しかし、実際はこの選手たちと戦わなければならぬことを認識し、真剣に体

大会当日になつて多くの選手が感じたと思いますが、ハーバーですれ違う他国選手は、皆、身体が大きく、時には見上げるほどでした。「同年代ではないだろう」という印象を皆が持ったはずですが、しかし、実際はこの選手たちと戦わなければならぬことを認識し、真剣に体

■すべてを向上せねばならない

入賞1名、シングル2名という成績は、一定の成果として評価できます。しかし、毎年つづけて表彰台を狙い、将来のトップセーラーとして育成していくためには、技術・体力・知力のすべてを向上せねばならないことを改めて感じました。

日本選手と世界のレベル差は一年半ほど遅れています。

大会当日になつて多くの選手が感じたと思いますが、ハーバーですれ違う他国選手は、皆、身体が大きく、時には見上げるほどでした。「同年代ではないだろう」という印象を皆が持ったはずですが、しかし、実際はこの選手たちと戦わなければならぬことを認識し、真剣に体



閉会式前に揃った28人の選手たち

風を奏でる

スポーツの大会運営の中で、セーリングはもっとも難しいものの一つに入ると思う。

変幻自在な風を相手に、選手のレベルに合わせて巧みに臨機応変に、しかも、ルールを守りつつ、フェアな、満足のいくレースを選手に提供する。

唐津の日本人運営スタッフは、世界で有数のオリンピックのIRO2人*を迎え、まったく違う性格の2人に戸惑いを感じながらも、オーケストラの指揮者と楽団員の関係に思いを巡らせ、指揮者が奏でる、目指す風の音色を汲み取りつつ、今まで培ってきた楽団員の音色も忘れず、素晴らしい虹色の風を奏でることがで

きたのではないと思う。

東京オリンピックに向けて、どんな指揮者を迎えるのか？ はたまた、日本人の指揮者が誕生するのか？

選手へ素晴らしい風色を提供するため、マニュアルには書けない、楽譜を超えた演奏を奏でるオーケストラとなるべく、選手と同じ視線で風と勝負し、世界レベルの経験をこれから東京まで続け、世界の素晴らしい選手たちを迎える準備をせねばならないと感じた。

選手もスタッフも、日本で行われるこれからの世界選手権が、東京オリンピックとその先につながる貴重な財産となつてほしい。そう感じた唐津のワールドだった。(重由美子)



一瞬 20 ノットまで吹いた 30 日、マスターズにとってはキツイ 1 日となった

2014 年スナイプ級 世界マスターズ選手権大会

2014 Id Crook Memorial World Masters Championship
<http://www.fsaf.net/snipe/>

福岡県セーリング連盟、日本セーリング連盟、
Snipe Class International Racing Association (SCIRA)、
日本スナイプ協会 (SCIRA Japan) の共催で
2014 年スナイプ級世界マスターズ選手権大会が
8 月 25 日～31 日、福岡市ヨットハーバーで開催され、
8 カ国 (USA、NOR、ITA、CAN、ARG、BRA、KOR、JPN)、
35 艇が参加しました。

杉山・金田組が 優勝!



8 カ国 35 艇が参加し、全 6 レースを戦った

久々の日本大会

この大会は偶数年に開催され、北米、ヨーロッパ、南米、日本をローテーションします。前回日本で開催されたのが 1994 年の蒲郡大会でした。日本で長く開催しておらず、日本スナイプ協会は、国際スナイプ協会から開催を強く要請されていました。年間を通じシブリースに恵まれていること、国際大会運営の経験が豊富なこと、長期間の大会で学生を含めた運営人員の確保が可能であること等の理由で、日本スナイプ協会から福岡県セーリング連盟に開催の打診があり、引き受けることになりました。

スナイプ級ワールドマスターズは、正規の SCIRA 会員であり、かつ大会の年に少なくともスキッパーが 45 歳以上、ク

ルーとの合計年齢が 80 歳以上であれば誰でも参加が認められます。また、マスターズ大会運営条件として 15 ノットの風が 5 分間継続するとレースは中止されます。レース回数は 1 日に 2 レースを超えることはなく、翌日に体力を温存ないし回復できる仕組みになっています。また、すべての国際スナイプ級の大会は、スナイプ独特のモットーである「Serious Sailing, Serious Fun!」のとおり開催されます。

杉山・金田組が優勝

レースは季節外れの停滞前線の影響で曇り空の下で始まりました。

1 日目 (27 日) は 14 ノット前後の風域の中、上村史朗・白石潤一郎組が 2 レースともトップ、杉山武靖・金田裕孝組が

2 レースとも 2 位で、日本選手の優勝を期待させました。2 年前のスペイン大会の覇者 Augie Diaz 選手は 10 位、14 位と出遅れました。

2 日目 (28 日) も同様な天気でしたが、風速 15 ノットを超えるブローで 1 レースのみ行われ、2 レース目は中止となりました。この時点で杉山・金田組がトップに躍り出ました。

3 日目 (29 日) は予備日でしたが、未消化レースがあるため休みを返上しレースが行われました。しかし、出艇後に大雨に見舞われ、レースは中止となりました。

4 日目 (30 日) は天候が回復し午後 1 時 25 分にスタートしましたが、風速は一時的に 20 ノットまで上がり、その日の 2 レース目は中止となりました。風速は超

えても続かなかつたため 1 レース目はできませんでした。マスター部門 (55 歳以上) の選手にとっては過酷なレースだったに違いありません。この時点で杉山・金田組が 12 点、上村・白石組が 13 点で 1 位、2 位を占めました。Augie Diaz 選手はこの日トップを取り、徐々に頭角を現してきました。

最終日 (31 日) はスタート時刻を繰り上げ、10 時 38 分にスタート。風速 5～10 ノットの好条件でレースが行われ、杉山・金田組が 4 位、9 位 (カット)、トータル 16 点で優勝し、Id Crook Memorial 杯を獲得しました。上村・白石組は 15 位、RET (カット)、トータル 28 点で全体の 3 位、Augie Diaz・Kate Sheehan 組が 6 位、3 位でトータル 23 点で 2 位に入りました。

福岡を好きになってくれた

インターナショナルジュリーはIJ 4名 (USA、KOR、CHN、JPN) とNJ 1名で構成され、福岡のNJ 2名がジュリー・セクレタリーとして参加しました。チェアマンのトマス・リンダ (USA) はスナイプワールドの経験もあり、当該クラスに精通していました。

今回、「抗議」1件、「抗議と救済」1件、「救済」1件、42条違反の海上ペナルティ1件と数次的には少ないようですが、ベテランの選手らしく選手同士で解決していたと考えられます。自主的なリタイアも見受けられました。

チェアマンのトムからは、博多湾の海面がこの規模のレースに適していること、また、レガッタの性格からも救助体制が必要であり、それをそつなくこなしていたレース・コミッティーに対し、「素晴らしい」との言葉をいただきました。

トムは岡村勝美レース委員長の判断の良さと決断力を高く評価し、「風速がSCIRA基準を上回った瞬間があったレースで、強風のために沈をしてセンターを落としたり、マストが破損したりした艇に対するレース中の配慮、それを理由に救済を求めた選手への聞き取りの場での紳士的な態度、その後の対処等がとても素晴らしい」と絶賛し、「ヒーイズクレバー！」を繰り返していました。

海外IJ全員がホスピタリティに対して「大変良かった」と喜び、福岡をとても好きになって帰ってくれたことは何より成功の証と感じています。(IJセクレタリー・高野由美子)

コースは先頭艇がほぼ1時間でフィニッシュできるように設定され、コースフラッグ W (WINDWARD / LEeward) 1500-1700m。選手にとっては最終日を除き大変なレースだったことでしょう。

最高齢はイタリアの Renato Bruni 選手、86歳で息子さんと参加しました。2番目はブラジルの Bibi Juetz さん(女性)、81歳です。3番目は日本の村上光一さん、76歳。村上さんはA級ディンギーの優勝者でもあります。この3名は Special Legend 部門で表彰されました。

ワールドマスターズでの日本チームの優勝は、過去1回しかありません。今大会、日本チームが優勝できたことは実に素晴らしいことです。

今大会は、若いセーラーに負けない実力を持つ選手たちが多く参加しました。全体の2位、マスター部門 (55-64歳) で優勝した米国の Augie Diaz 氏はス

ナイプキングです。スナイプ級のワールドチャンピオンであり、世界を代表するセーラーです。

Serious Sailing, Serious Fun

Id Crook Memorial 杯とは SCIRA 会長だった Id Crook さんが優勝トロフィーを寄贈されたことから命名されています。今回、来日された SCIRA 副会長の Gweneeth Crook さんはその娘さんです。元スナイプセーラーだったお母さんと一緒に来日され、スナイプクラスのアットホームな雰囲気身を以て示されました。

大会パンフレットに記載された Crook 副会長の挨拶文に印象深い一文がありました。それはスナイプクラスのモットーが「真剣に楽しむ」ことであり、互いに旧交を温め新たな友人とめぐり合う「交流イベント」が海上のレースと同じくらい大事だ、ということでした。

今回交流を深めるためウエルカム

パーティー、レース後のパーティー、予備日の大宰府観光、フェアウェルパーティーを企画しましたが、予備日にレースが行われたため残念ながら観光は中止となりました。

26日の開会式では JSAF の河野会長、国際スナイプ協会の Crook 副会長、福岡市の貞和副市長、日本スナイプ協会の古賀会長の挨拶があり、その後、福岡県セーリング連盟の秋山会長の乾杯の音頭でウエルカムパーティーがスタートしました。

英語、日本語、英語もどきの和やかな会話があちこちで交わされましたが、そこに突如ものものしい甲冑姿の3名の武將が登場。大河ドラマの影響で福岡でミニブームになっている黒田官兵衛率いる「福岡黒田武將隊」の面々です。彼らの声高な口上と厳つい出で立ちにあってにとられていた海外選手も、ステージ終了後はシャッターを盛んに切っていました。

熱戦終了後31日にホテルマリノアリゾートで行われた表彰式では、SCIRA の Crook 副会長、FSAF の秋山会長の挨拶のあと、ワールドマスターズの成績発表、表彰が行われました。

Apprentice master division、Master division、Grand master division と表彰が進み、今回特別に設けられた75歳以上の Special Legend division の表彰のあと、総合優勝の杉山・金田組に Id Crook Memorial Trophy が渡され会場は最高に盛り上がりました。

今回は全日本マスターズも兼ねていたためその表彰も行われ、締めは SCIRA JAPAN の古賀会長の「2年後また会いましょう」の言葉、そして最後に当日が誕生日だったカナダ選手のためにケーキとハッピーバースデーの合唱で祝いをしました。

これは Crook 副会長の発案ですが、これこそがスナイプファミリーの素晴らしいさと改めて感じました。

御礼と感謝

大会は多くの企業、組織、個人の方々の絶大なご支援のお蔭で成功いたしました。

ご後援をいただいた福岡市、メインスポンサーの株式会社エス・ピー・ネットワーク (SPN)、ご協賛いただいた医療法人会、全日本実業団ヨット連盟、株式会社ベネッセホールディングス、福岡市ヨットハーバー指定管理者 博多港開発・ササキコーポレーション共同事業体、公式パンフレットへの広告ご協賛をいただいた、にわせ歯科クリニック、川上一憲、株式会社ノースセル・ジャパン、名門大洋フェリー、オクムラポーター販売株式会社、医療法人六広会、ジャストヨット運送、株式会社シンク・スタイル、辻堂加工株式会社、株式会社松茸屋、静岡ガス(株)運動会ヨット部、株式会社マリリンウェーブ小樽の各社、各団体、個人の方、心より感謝申し上げます。その他、多くの方から差し入れもいただきました。誠にありがとうございました。

最後に、共同主催をしていた公益財団法人日本セーリング連盟、本大会のために多大な出資と人員派遣をしていただきました日本スナイプ協会、チャーター艇を提供していただいた各クラブ、各個人のオーナーの方々、及び長期間の大会にボランティアで運営補助を務めていただいた福岡大学、九州大学、西南学院大学、日本経済大学、鹿屋体育大学ヨット部の学生さん、女子マネージャーさん、それぞれの方々に改めて感謝申し上げます。(文責・福岡県セーリング連盟理事長 岩瀬広志、協力・日本スナイプ協会事務局 長 吉留留子、大会広報委員長 豊原政則、写真撮影・高木勝海)



レジェンド優勝のビビ組 (BRA)



マスター優勝のディアス組 (米)



GM優勝の川上親子



AP 優勝 & 総合優勝の杉山・金田組。中央左は SCIRA 副会長の Crook さん、同右は Crook さんのお母さん。スナイプセーラーです



Marina da Gloriaの様子



Marina 周辺の海岸

Aquece Rio Test Eventsを視察して

JSAF オリンピック・パラリンピック準備委員会は

リオデジャネイロで開催された

セーリング競技のオリンピック・テストイベント

(Aquece Rio Test Events、8月2日～9日)の現地視察を行った。

ブラジルのリオ五輪への準備状況をチェックするとともに、

2020 東京へ向けての具体的な第一歩ともなった。

レポートと写真 / JSAF オリンピック・パラリンピック準備委員会

I ロケーション

リオ2016オリンピック・パラリンピックのセーリング競技が開催される Marina da Gloria はリオデジャネイロ南部 Guanabara Bay に面した Flamengo Park に隣接した地域にある。Antonio Carlos 国際空港からダウンタウンを抜ける南に約20km 朝夕のラッシュ時には車で1時間強かかる距離に位置している。

競技会場はこの Marina da Gloria と隣接する Flamengo Park の一部を使用して行われていた。Marina da Gloria のすぐ先には国内線用のローカル空港があり、終日レース海面のすぐ上空を超低空で飛行機が離発着している。Guanabara Bay 周辺はリオを代表する景勝地であり、白い砂のビーチや緑に囲まれ、垂直に隆起したような Sugarloaf Mountain や市街の山からはあの両手を広げたキリスト像がレース海面を見降ろしている。

オリンピック・パラリンピックの開催されるこの時期は真冬の乾季に当たり、気温は摂氏25度前後で空気が乾燥して過ごしやすく、日差しは強くてもさほど汗をかくことはない。海水は意外と冷たく、雨天・曇天の日には肌寒さを感じる。

II 会場施設

1 競技会場

オリンピック会場は既存の Maria de Gloria と隣接する公園を使用した。現時点では、オリンピックのために新設した施設はなく、すべて既存の施設と仮設の施設を利用した会場である。会場全体は金網の柵で覆われ、選手・コーチ・役員等が通過するゲートと報道関係が使用するゲートがある。

Maria de Gloria はスロープ周辺が若洲訓練所を思わせるような規模であったが、ボンドの奥行きと後背地が広く、堤防沿いに多くの大型艇が係留されていて、全体的なハーバーとしての規模はかなり大きい。

会場には2014テストイベントのための仮施設が設置されていたが、16年本番での施設はまったく異なるものになると説明を受け

た。しかし、リオ・オリンピックの計画図は公表する段階ではないとのこと。将来的な計画を掴むことはできなかった。

2 運営ブース

運営ブースは2階建て建物（以下本部棟と表記する）の2階部分（壁はなく天井は布張り）にプレハブの部屋を作り、そこで運営を行っている。施設は16セクション、18部屋から構成されており、この本部棟以外には計測用テント、海上監視用ブースがある。

① Official Notice Board (3x10m)

公式掲示板があり、ガラス張りの部屋となっている。掲示物は部屋の内側から貼られており、風で飛ばされたり、汚れないようになっている。

② Athlete & Coach Reception (6x5m)

コーチと選手用の窓口で、レース運営上の質問や要望はこのセクションが対応しており常に混雑しているブースである。

③ Result Room (5x3m)

レースと審判結果を取りまとめ、最終結果を作成・公示するセクションである。

④ ISAF Office / Technical Delegations Office (6x5m)

ISAF から大会の責任者として Mr. Alastair Fox とレース責任者として Mr. Nino が派遣されており、二人の机が設置されている。

⑤ Competition Management Office (9.5x5m)

実質的にテストイベントを運営しているブラジルセーリング連盟責任者の机があり、レース委員長として Mr. Walter Bodener、事務長として Mr. Kadu が詰っている。

⑥ FOP / PRO Office (4.5x5m)

ブラジルセーリング連盟のスタッフが事務処理を行っている。

⑦ Sport Information & Secretary Room (6x8m)

ISAF 副会長 Mr. W. Scott Perry とテストイベント副委員長 Mr. John S. Bennett の机があり、主にセクレタリールームとして使用されている。

⑧ Radio Distribution Room (6x3m)

運営に使用される全てのトランクはこのセクションから貸し出される。

⑨ Workforce Break Area (96 seats) (19x13m)

スタッフ用のレストランで事前に購入したチケットがないと利用することができない。選手・コーチは事前に申し込んだランチボックスが配られていた。一般人に対してはセキュリティーエリアの外にキッチンカーが2台来て軽食を提供していたが、高くて不味かった。

⑩ Sport Meeting Room (72 seats) (19x7m)

コーチミーティング（毎日10時から開催）や記者発表を行う会議室で、発表側の壁にはスポンサーボードがある。ボードには2社のスポンサー名 (Bradesco, Correios) が掲載されている。

⑪ ITO Lounge (IRO / IM) (9x4m)

ISAF から派遣される IRO 等の ITO のためのセクションで、Mr. Dimitris Dimou (IM) が詰っている。

⑫ ITO Lounge (Jury) (10x4m)

ISAF から派遣される J 等の ITO のためのセクションである。

⑬ Jury Reception Area (6x5m)

ジュリーのための受付と控室である。

⑭ Athlete Protest 1-3 (5x5m)

テストイベントでは海上でジャッジを行ったため、陸上での審問は行われなかった。

⑮ Press Work Room (24 seats) (6x3m)

報道用のスペースで電源及び WiFi が完備。

⑯ Venue Operation Center (15x7m)

各施設の運営に必要なスタッフの割り振りを行っているセクションで、大会運営の心臓的な役割を担っている。

また、これら以外の重要な施設としては、選手控えスペース（椅子席144、ソファ1席28、30x50m）と仮設のトイレ・シャワーが用意されていた。

本部棟の一階部分にはレストラン、売店やマリニョップが並んでいて、フェンスでセキュリティーレベルを分けており、一般客もこれらショッパへの出入りは可能である。また、フェンスの両側を使ってミックスゾーンが設定されていたが、実際は報道陣が選手控えまで入って取材をしていた。

3 運営施設

① スロープ

スロープは本設1カ所、仮設2カ所で幅はそれぞれ20m程度である。本設スロープも幅20mと決して広くないが、船台担当の責任者と



ミックスゾーン



マリナーレイアウト



選手控室

スタッフが的確に作業することによって出着艇時の混乱はまったくなかった。

仮設スロープは本設スロープに併設する形で設置されていた。もう一カ所の仮設スロープはR.S.Xとナクラ用のもので砂浜の上に設置されている。

② レース艇置場

レース艇の置場は隣接する公園や駐車場も利用し、船と船の間を大きく取り、余裕を持った配置となっている。これはフィッティングや機装の際にスペースが必要なので、大型艇であるナクラ級、49er級及び470級の場合は特にスペースを考慮する必要がある。

③ コンテナ置場

コンテナ置場は海側の駐車場を利用しており約20本程度のコンテナが並べられていた。コンテナ間の間隔は1mほどある。これはコンテナの扉をフルオープンする場合に必要な最小限の間隔だと思われる。

④ 船台置場

コーチボート等の船台はオリピック本番では150台ほどになるため、ある程度の広さを持った船台置場が必要になる。

⑤ 運営艇・コーチボート係留施設

従来は大型艇を係留する桟橋(およそ70m)のハバー側をコーチボートの係留場所、外洋側を運営艇の係留場所としていた。コーチボートは60艇程度あると思われる、3重、4重の腹付けで係留している。

III 大会運営

① スポンサー

会場内には一切「2016リオ・オリピック・パラリンピック」の文字は見受けられない。あくまでのAquece Rio Test Eventsとして謳われている。

このテストイベントにはオフィシャルスポンサーとしてCoreosというブラジル政府も出資するIT企業が、またオフィシャルサポーターとしてブラジルの4大銀行の一つBradescoが登録されている。この2社はあくまでも今年と来年2回行われるテストイベントのスポンサーとのことであった。

② ボランティア

今回のテストイベントでは合計206名のボランティアを運営要員として確保していた。(警備・清掃は除く)

今回はそのすべてがいわゆる有料ボランティアだが、本番のオリピックではその限りではないとのことであった。陸上のボランティアがレース艇出艇後、船台を整理と浜に並べていたのが印象的であった。

③ コーチ・ミーティング

大会期間中は毎朝10時からミーティングルームでコーチ・ミーティングが開かれる。ブラジル組織委員会のセーリングマネージャーWalter Boddenerからの連絡事項の報告に始まり、気象情報が海軍士官から報

告される。それに続きISAF競技運営ヘッドのAlastair Foxからのレースに関する諸注意や説明、並びに計測・運営・ジャッジのそれぞれISAF責任者からの諸注意と質疑応答が行われる。コーチのレギュレーションなどかなり突っ込んだ議論が毎朝行われている。



ヘリコプターによるメダルレースの撮影

⑥ 報道

テストイベントとは言え初日には150名の報道関係者が来場しているとの報告があった。地元新聞には連日このテストイベントの記事が掲載されていたが、街では一般の人の関心はさほど感じられなかった。

会場の入り口はメディア用と選手、一般人とは別れていて、インタビュ用のミックスゾーンも設けられていたが、テストイベントのせいか、規制はそれほど厳しくはなく、結構自由にインタビュしていた。

驚いたのはメダルレースのヘリによる空撮だった。2020の東京でもヘリによる空撮の問題が取り上げられているが、リオでは超低空で離着陸する飛行機のすぐ横、レース海面80〜100m上空をホバリングしながら撮影していた。

ちなみにオリピック本番では11時〜17時の間このローカル空港での離着陸を制限し、アントニオ国際空港を主とする空港へ振り分けるとの説明があった。

IV 競技運営

① レース海面は左図のとおり。



リオのレース海面のレイアウト

② 風況・潮流

傾向として午前中は3m以下。昼頃より南風が湾内に入り5〜10ノット(ブローで12〜13ノット程度)。潮流はかなりあり、時刻によって変化する。

③ レース海面の水質

マリナ内では無風時にはやや悪臭。ただしレース海面に出ると一部にプラスチック・ゴミの浮遊(特に潮目付近)を見ても、予想以上にきれいな印象。特に湾外は問題なし。

④ 運営艇

運営ボートを新たに20艇購入。内訳は運営用15艇、審判用5艇である。(おわり)



運営艇 (運営・ジュリー)

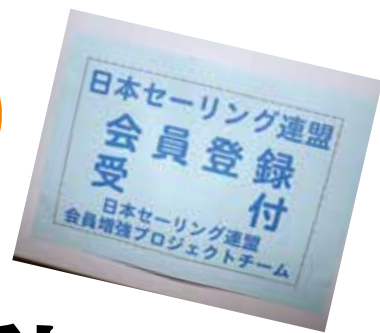


RESPECT THE ELEMENTS™

〒550-0004 大阪市西区御本町1-14-18
TEL: 06-6445-2300 FAX: 06-6445-2310 E-mail: info@gill.jp
GILL 日本総代理店 株式会社 フォーチュン
http://www.gill.jp

JSAF 会員増強プロジェクト

タモリカップ & A級全日本で活動!



JSAF 会員増強プロジェクト (PJ) チームは今夏、会員獲得のための活動を行った。
宮城県松島、神奈川県横浜の活動をレポートするとともに、福岡のタモリカップもご紹介。

タモリカップ 2014 横浜大会 様々な現場で 活動します

タモリカップ横浜大会、昨年は台風の襲来で前夜祭のみでしたが、今年は小雨がばらつく中、前夜祭もサルサもレースも大賑わいでした。

横浜大会は参加艇数160艇超、パーティ参加は2000人超、横浜ベイサイドマリナーの野外ステージに所狭しとセーラーが集まりました。

18時開場の前夜祭は定番のタモリビールにバーベキューを楽しみながら、お腹が減った人は吉野家の牛丼にはなまるうどん、最後はタモリさん特製水軍カレーと皆さん大満腹です。

前夜祭終盤には福岡大会から引き続きの参戦のサルサバンド「オルケスタ・デ・ラ・ルス」による大迫力のサルサ演奏が始まり、舞台は大盛り上がり。最後には



タモリカップとタモリビールを掲げるタモリさん (横浜)

タモリさんも入って熱気にあふれました。

最後には翌日タモリさんが乗船する旗艦〈みらいへ〉の艦長が登場し、タモリさんに名誉艦長を委嘱し、レースに向けて準備は整いました。

レース当日、雨にもかかわらず待ちましたとばかりにどの船も出艇! 旗艦〈みらいへ〉の周りを取り囲むように水上パレードが行われ、160艇が横浜ベイサイドマリナー沖に集結です。

いよいよレース。コースは南の八景島周辺までをとったため、八景島近くで練習する学生ヨット部もレースの迫力に驚いたそうです。

レース終了後は表彰式、シャンパンファイトと進み、来年の大会開催も早々に発表され、タモリカップ横浜大会は終了しました。

JSAF 会員増強PJチームは神奈川県セーリング連盟とタッグを組み、同大会の野外会場にブースを設け、会員の募集活動を行いました。その結果、4名の方から新たに会員加入のお申し込みを受けました。

セーリングを楽しむ、ヨットレースを純粋に楽しむという趣旨の大会の現場で新たにJSAF 会員を獲得できたことは、非常に意義があると思います。引き続き様々な現場で活動したいと考えていますので、皆様のご協力をよろしく願っています。(JSAF 会員増強PJチーム・細川敬二)



JSAF ブースで JSAF グッズを購入のカップル (横浜)

NOTHING EXCEPT VICTORY

PATTON HARKEN®

PATTON-HARKEN
Regatta watch

¥198,000 (税別)

www.harken.jp

A級ディンギー全日本大会

オールドソルトのパワーに感服

小雨の降る松島の漁港には全国各地から往年の名選手が集まってきました。北は東北、南は九州まで、その元気さ、活発さはセーラーに年齢は関係はない、と改めて痛感しました。

会員増強PJチームはレース会場にブースを構え、JSAFグッズの販売と共に新規会員獲得のための活動を実施しました。

会場には選手のみならず、応援に駆けつけた皆さんを含め300人以上の方々が終結していました。中には各校のOB会から指名を受けた若手OB、現役諸君も見られ、この大会にかけられるA級ディンギーセーラーの意気込みを垣間見ることができました。

初日のレース終了後、全参加者を集めての大パーティが開かれ、そこにJSAF河野会長も参加され、本会の盛り上がり称えるとともに、先に決定したオリンピック招致の説明があり、今後の組織やボランティア体制の構築、また皆様のご協力について謝意を表されました。さらに、会員増強PJについても言及され、新会員登録システムの開始、オリンピックへ向けての

会員増強についてお話しいただきました。

大会二日目は河野会長も大会会場に来場され、レース観戦後、JSAFブースで関係者や現地の方とヨット談義をかわされ、会員増強に関する勧誘も自らかつてでいただきました。その甲斐あり今回新たに日本A級ディンギー協会を介して2名の方が会員に登録していただきました。

大会は地元開催の松島A級帆走倶楽部が優勝という結果で幕を閉じました。また、閉会式で、岡山大学OB会で運営する飛沫会の有志がA級ディンギーで津軽海峡を横断する、というチャレンジも発表され、大いに激励を受けておりました。その後このチャレンジ成功の報も届き、オールドソルトのパワーたるや絶大なものがあるな、と痛感しました。

JSAFのみならず、ヨット界全体においてもこれだけのパワーある方々にもっともっと盛り上げていっていただきたいと思い、引き続き会員増強に邁進していきます。(JSAF会員増強PJチーム・細川敬一)



オルケスタ・デ・ラ・ルスのパフォーマンスに大興奮のセーラーたち（横浜）

パレードの旗艦となった「みらいへ」（横浜。写真提供／鈴木正子）



当日、停滞前線はまだ九州上空に居座り、前後祭前には時折遠くに雷鳴さえ聞こえていました。午後7時、予定どおりパーティの幕は切って降るされ、タモリさんが大ファンというサルサバンド「オルケスタ・デ・ラ・ルス」が登場。灼熱のリズムが降り注ぐ雨を水蒸気に変えていくのでした。その後、ビールでご機嫌のタモリさんがステージに上がり、コン

今年も大会直前に大型台風11号が接近してきました。このまま中止に追い込まれると思われましたが、タモリさんの「なるべく早く開催したい」という意向で翌週の8月15、16日に延期開催となりました。その時期はお盆でしたが80艇、800人を超えるエントリーがありました。

ちなみに昨年はレース直前に20ノットに吹き上がり、レース委員長の苦渋の判断でレース中止となりましたが、パーティは予定通り行われ、空気の盛り上がりを見せました。横浜大会も同様で、「私は日本全国を旅する『日本一のバーベキューオーガナイザー』と呼ばれるようになりました」とは、タモリさんの名言でした。

海を愛するタモリの日本一楽しいヨットレース、タモリカップ福岡の開催は2回目になります。今回は準備期間が十分にあつたことから友達の輪が大きく広がり、参加艇118艇、パーティ申込みは1100人を超える、博多湾史上で最多のエントリーを見ました。

タモリカップ 2014 福岡大会

レジェンド
伝説、ここに
生まれる



福岡大会のタモリカップは「Hammingbird V」に授与された

ガ（細長い太鼓）の腕前を披露すると、宴は最高潮に達しました。「タモリカップに雨なんか関係なし！」まさに新伝説の誕生でした。
翌日の海上パレードは、雨も上がり凛々しいキャプテンスタイルに身を包んだタモリさんが、西福岡マリナー「マリノア」の観覧車の下で参加艇を激励していました。
レースは北北東10ノットの風で11時、お約束のオールフェアのクリアスタート。博多湾にぼんやり浮かぶ能古島の西側で約8マイルのトライアングルコースを回りました。
表彰式では「100艇を越える福岡・横浜大会を企画して、初めてレースができましたね」とタモリさんの言葉に会場は爆笑の渦に包まれました。初代タモリカップは「Hammingbird V」に授与されました。
「来年も来てくれるかな?」の決め台詞に「いいとも!!」の歓声が福岡・博多湾に大きくこだまするのではした。(福岡県セーリング連盟・菅原弘)

夢にむかって・・・

セーリングのナショナルチームとユースチームを応援します!

ナショナルチーム・ユースチームの海外遠征の手配、
インド洋の楽園 セーシェルへのリゾートツアー、
障害者スポーツの海外派遣、
フランスへの個人語学留学の手配、
業務渡航その他、海外への各種渡航手配を行っております。

株式会社 **グロリア ツアーズ** TEL:03-6661-9080 (代表) <http://www.gloria-tours.jp>

JAPAN CUP 2014 WINNER KARASU

JAPAN CUP 2014 はディスタンスレースを含む全 8 レースが行われ KARASU(KING40) が 6 レースストップと圧倒的な強さで優勝を飾りました。

KARASU は ノースセールの 3DL800 シリーズをメインセールとアップウィンドセールに、V-Series をダウンウィンドセールに使用。

ノースセールのデザイン力が艇のポテンシャルを最大限まで引き出し勝利に貢献しています。

JAPAN CUP 2014 RESULTS

- 🏆 1st KARASU
- 🥈 2nd ESPRIT
- 🥉 4th SPANK
- 🏆 5th Century Fast GP

Recent Results

第55回パールレース

- IRC 総合
- 1. ESPRIT
 - 2. TEN QUARTER
 - 4. GAIA
 - 5. CRESCENT

2014全日本ミドルボート選手権

- IRC
- 1. WAILEA
 - 2. CHOVE CHUVA

2014関西ミドルボート選手権

- IRC
- 1. CHOVE CHUVA
 - 2. WAILEA
 - 3. LAPIN BLEU
 - 4. FIVE STAR

2014関東ミドルボート選手権

- IRC 総合
- 1. ESMERALDA
 - 2. QUETEFECK
- IRC-B
- 1. EXOTIQUE

Powered by NORTH SAILS



Faster by Design

www.jp.northsails.com

本社・横浜ロフト 045-770-5666

関西ロフト 0798-26-7771

北海道ロフト 0134-25-3227

info@jp.northsails.com

Full Speed Ahead

Carrying dreams, Carrying the future

子供たちの未来が輝かしいものであって欲しい。そのために私たちは運び続けます。
ヒトやモノを運ぶことが、夢を運ぶことにつながると信じて。船だからこそできること。
商船三井だからこそ、できることがあります。 www.mol.co.jp

MOL 商船三井

CATCH THE WIND

YAMAHA
SAILING CRUISER
&
DINGHY SERIES



●お問い合わせは.....
○ディンギーヨット／オクムラボート販売株式会社 〒671-0111 兵庫県姫路市の形町の形2013 tel.0792-54-5630 <http://www.okumuraboat.co.jp>
○クルザーヨット／ニュージャパンヨット株式会社 〒421-0502 静岡県牧之原市白井7-9 tel.0548-54-0221 <http://www.njy.co.jp>



YANMAR



次の100年に向けて。
最高の技術・サービス・ホスピタリティを
極めるヤンマーへ。

ヤンマー株式会社 www.yanmar.co.jp

病院部門

北柏リハビリ総合病院(247床)

健診センター

柏健診クリニック
汐留健診クリニック

クリニック部門

西浦眼科
まちや外科内科
梅郷整形外科クリニック(13床)
天宣会循環器・睡眠呼吸クリニック

介護老人保健施設部門

梅郷ナーシングセンター(124床)
北柏ナーシングケアセンター(120床)

介護老人福祉施設部門

みゆきの郷(120床)
流山こまぎ安心館(110床)

介護福祉部門

梅郷ナーシング居宅介護支援事業所
北柏リハビリ総合病院居宅介護支援事業所
居宅介護支援センターみゆき
居宅介護支援事業所 こまぎ安心館

訪問看護ステーション

北柏訪問看護ステーション

研究部門

日本成人保健医療問題研究所



天宣会グループ

〒277-0021 千葉県柏市中央町1-1 TEL 04-7167-6667(代表) www.tensenkai.or.jp

「感謝な心」で
信頼の医療サービス
ご提供いたします



アスリートの
声が、育てるモノ。



明日は、きっと、できる。

「世界と戦う理想のフォームを維持
し続けたい。」 室伏選手

「壁を超えてタテに落ちるシュートで
ゴールを決めたい。」 本田選手

「細かなステップワークにこだわるから
素足感覚に近づけたい。」 福原選手

ミズノはさまざまなトップアスリートの声を
聞きながら、その要望に応じています。
世界で戦うアスリートたちの想いが生んだ
技術は、やがてあなたのモノになります。

ミズノ製品は、
アスリートの声で
できている。

mizuno.jp ☎ 0120-320-799

国際VHF無線用免許講習会

舵社主催
KAZI マリンスクール
海上特殊無線技士講習会を
10%割引で受講できます

**JSAFメンバー
限定割引**

専用申込書が必要です

お申し込みには、JSAF会員限定の専用申込書が必要です。専用申込書はJSAFホームページからダウンロードするか、KAZIマリンスクールまでお電話でご請求ください。

【お問い合わせ・申込用紙請求先】
JSAF外洋安全委員会ホームページ
jsaf-anzen.jp/1-7-2.html
KAZIマリンスクール
TEL 03-3434-0941

必ず
JSAFメンバー
専用申込書と
お伝え下さい。

お申し込みは、 ファックスで、 JSAFまで

お申し込みには、JSAF会員限定の専用申込書に必要事項をご記入いただき、JSAF外洋安全委員会までFAXにてお申し込み下さい。

【受講申込みFAX送付先】
JSAF外洋安全委員会
FAX 045-544-5813

お支払はカード、 現金書留、 お振込等で

JSAF外洋安全委員会にお申し込み後、KAZIマリンスクールより受付確認の連絡を入れさせていただきます。その際にお支払方法をご指定ください。各種クレジットカード、銀行振込、現金書留でのお支払がご利用いただけます。また、システムKAZI会員の方はシステムKAZI自動引き落としもご利用いただけます。

第2級海上特殊無線技士 軽減コース

【受講料】
29,000円 ▶ **JSAF会員 限定価格 26,100円** (税込)
(免許申請料、教科書代含む)

第2級は国際VHF25WまでとDSCの運用が出来る資格です。軽減コースは第3級からのステップアップコースで、第3級海上特殊無線技士資格を持つ人のみ受講可能です。1日7時間の講習を受講し、終了試験に合格すると資格を取得できます。

第31回
東京
教室
2014.11.9 (日)
AM9:00-PM7:30

【会場】LMJ 東京研修センター 3F 大会議室
東京都文京区本郷1-11-4 小倉ビル(東京ドーム近く)
【定員】50名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

第32回
大阪
教室
2014.12.7 (日)
AM9:00-PM7:30

【会場】此花会館 402、403号
大阪市此花区西九条5-4-24
【定員】50名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

- 最新の講習会日程については、KAZIホームページをご覧ください。
- 各回定員になり次第締切となります。
- 申込書をご送付いただいた場合でもお断りする場合があります。
- 受講料入金時をもって正式申込みとさせていただきます。
- 完全予約・定員締切制のため正式申込み後の日程変更および返金はできません。

第3級海上特殊無線技士

【受講料】
24,000円 ▶ **JSAF会員 限定価格 21,600円** (税込)
(免許申請料、教科書代含む)

国際VHF、5Wまでの運用ができる資格です。1日6時間の講習を受講し、修了試験に合格すると資格を取得できます。どなたでも受講できます。

第44回
大阪
教室
2014.10.5 (日)
AM9:00-PM6:30

【会場】此花会館 402、403号
大阪市此花区西九条5-4-24
【定員】50名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

第45回
東京
教室
2015.1.25 (日)
AM9:00-PM6:30

【会場】LMJ 東京研修センター 3F 大会議室
東京都文京区本郷1-11-4 小倉ビル(東京ドーム近く)
【定員】50名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

第46回
名古屋
教室
2015.2.15 (日)
AM9:00-PM6:30

【会場】ゼミナールプラザ第三会議室
名古屋市中区正木3-7-15
【定員】40名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

受講申込みFAX送付先
JSAF外洋安全委員会

FAX 045-544-5813

リオデジャネイロ選手強化 協賛社



関西ヨットクラブ

医療法人 健育会グループ

J-Will Group

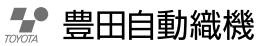
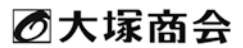


環境キャンペーン 協賛社

外洋キャンペーン 協賛社



平成26年度賛助会員



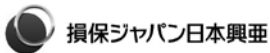
マリンサービス児嶋



東京夢の島マリナー



ace insurance



NO.108

JAPAN CUP 2014で優勝を決めた(KARASU)のクルーたち。満面の笑みがまぶしい(写真/中嶋一茂)

ホームページをリニューアルしました。皆さんから多くのご感想ご意見、ありがとうございます。今後も機能・コンテンツは随時拡大します。まだご覧いただいていない会員の皆さん、まずは使ってみてください。
http://www.jsaf.or.jp/
閑話休題。錦織圭選手の全米オープン準優勝。一戦ごとに放送枠まで広がって一気に盛り上っていき様相に、スポーツ発展の可能性を改めて感じた

次第です。2020年東京五輪という否が応でも盛りあがる舞台で我等のJSAF選手がメダルレースを演じる、なんて展開になるといいですね。ところでオリンピックは選手だけでなく、JSAF会員も参加できることはご存知ですか。ボランティアや活動募金が始まりました。ぜひ新しくなったホームページをご覧ください。いやあホームページって便利ですね!

(柳澤康信/広報委員会委員長 JSAILING 編集長)



J-SAILING No.108 平成26年9月25日発行 通巻462号 昭和42年12月25日第三種郵便物認可
発行/公益財団法人日本セーリング連盟広報委員会 〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
電話 03-3481-2357 ファクス 03-3481-0414 E-MAIL head@jsaf.or.jp
発行人/河野博文 編集人/柳澤康信 編集スタッフ/エディター・豊崎謙、フォトグラファー・中嶋一成、デザイナー・加瀬倫有
定価/300円(JSAF会員は会費に購読料が含まれています)
www.jsaf.or.jp



Badou-R 本店 東京都港区南青山 7-7-21 TEL 03-5778-0045

営業時間 11:00 - 19:00 火曜日定休

www.45rpm.jp

JAPAN AIRLINES



新しい翼で、世界の空へ。



明日の空へ、日本の翼

